

2018 年度

点検・評価報告書
—アセスメント結果の概要—

学生支援評価分科会

学生寮におけるラーニングアウトカムズ 自己評価アンケート概要 (2017年度アンケート最終報告、2018年度アンケート経過報告)

1. 目的

学生寮におけるラーニングアウトカムズの効果測定を行うために自己評価アンケートを実施した。

2. 調査方法

Google フォームによりアンケートを実施した。学生寮における教育目標の各項目について、5段階の自己評価を求めた。

【2017年度自己評価アンケート 最終報告】

①アンケート実施期間

入寮時アンケート・・・2017年4月

卒寮時アンケート・・・2018年1月

②調査対象

入寮時アンケート・・・全寮生 1,276名 [男子 715名、女子 561名]

卒寮時アンケート・・・全寮生 1,228名 [男子 702名、女子 526名]

※国際教養学部生の留学による入れ替え、途中入退寮のために入寮時と卒寮時の人数に相違がでている。

③回収状況

入寮時アンケート・・・912名 (71.5%) [男子 489名 (68.4%)、女子 423名 (75.4%)]

卒寮時アンケート・・・441名 (35.9%) [男子 274名 (39.0%)、女子 167名 (31.7%)]

④アンケート結果の概要

学生寮における教育目標の各項目について、自己評価 5段階別の割合を算出した。全項目ともにポジティブな自己評価の割合が高かった。

アセスメント項目「国際性：多様性を受容する力と他者との協働性」に通ずる以下の質問についても、自己評価における「いつもまたは、ほとんどの場合に当てはまる(100%に近い)」の割合が増加していることから、学生寮における国際性への取組みは効果があると考える事ができる。

- (1) 多様性を受け入れる力 [多様な文化的背景を持つ他者との関わりの中で、お互いの価値観の差異を認め、受け入れることができる] **0.8%増加**
- (2) コミュニケーション力 [自分の主義主張を、わかりやすく他者に伝えることができる] **10.92%増加**
- (3) コミュニケーション力 [他者の意見を尊重し、理解することができる] **12.7%増加**
- (4) 協力し実践する力 [共通の目標に対して、責任を持って取り組むことができる] **6.82%増加**
- (5) 協力し実践する力 [共通の目標に対して、他者と協力することができる] **4.33%増加**

【2018 年度自己評価アンケート 経過報告】

①アンケート実施期間

入寮時アンケート・・・2018年7月

卒寮時アンケート・・・2019年1月

②調査対象

入寮時アンケート・・・全寮生 1,144 名 [男子 641 名、女子 503 名]

卒寮時アンケート・・・全寮生 1,232 名 [男子 673 名、女子 559 名]

※留学生数に変化がありました。

③回収状況

入寮時アンケート・・・625 名 (54.6%) [男子 357 名 (55.7%)、女子 268 名 (53.3%)]

卒寮時アンケート・・・324 名 (26.3%) [男子 152 名 (22.6%)、女子 172 名 (30.8%)]

④アンケート結果

現在分析中。学生寮における教育目標の各項目について、自己評価 5 段階別の割合を算出し、入寮時と卒寮時を比較する。

⑤改善点

- ・2017 年度に実施したアンケートの質問内容を更新し、より実態を把握できるように 1 つのラーニングアウトカムズにつき、2 つの肯定的質問、1 つの否定的質問を作成した。
- ・留学生向けに、卒寮時アンケートでは英文を併記した。

⑤今後の課題

- ・アンケートの分析結果を個人の成長につなげる取組みの検討が必要。

クラブ活動におけるラーニングアウトカムズ 自己評価アンケート概要

1. 目的

クラブ活動におけるラーニングアウトカムズの効果測定を行うために自己評価アンケートを実施した。

2. 調査方法

Google フォームによりアンケートを実施した。クラブにおける教育目標の各項目について、5段階の自己評価を求めた。

【2017年度自己評価アンケートについて】

①アンケート実施期間

1回目：2017年7月

2回目：2018年2月

②調査対象

1回目・・・三役（部長、副部長、会計）378名

2回目・・・1回目で回答した239名

③回収状況

1回目アンケート・・・239名（63.2%）

2回目アンケート・・・91名（38.1%）

④アンケート結果の概要

全項目ともにポジティブな自己評価の割合が高かった。また、1回目と2回目の自己評価の比較については、顕著な変化は見られなかったが、2回目のほうが、1回目よりポジティブな評価をつける割合が増加した。具体的には、アセスメント項目の「国際性：多様性を受容する力と他者との協働性」にも通ずる、「尊重する力」「コミュニケーション力」の向上が見られた。以下3点の質問がそれに該当する。

①「多様な文化的背景を持った他者との価値観の差異を認め、受け入れることができる」との質問に対して、「いつもまたは、ほとんどの場合に当てはまる（100%）」と回答した人は、2017年7月は44.77%だったが、2018年2月では、53.85%と9%以上増加している。

②「平等に相手を尊重しようと心がけることができる」との質問に対して、「いつもまたは、ほとんどの場合に当てはまる（100%）」と回答した人は、2017年7月は53.97%だったが、2018年2月では、70.33%と16%以上増加している。

③「他者の意見を聴くことができる」との質問に対して、「いつもまたは、ほとんどの場合に当てはまる（100%）」と回答した人は、2017年7月は59.83%だったが、2018年2月では、70.33%と11%以上増加している。

以上の結果により、「尊重する力」「コミュニケーション力」についてポジティブな変化であることがわかる。

【2018年度自己評価アンケートについて】

①2018年度の実実施計画・実施状況

昨年度同様に7月と2月に2回のアンケート実施を計画していたものの、アンケートの改良に時間がかかってしまい、1回目のアンケート実施のタイミングを逃してしまったため実施していない。

②2017年度のアンケートからの内容や方法の変更点

アンケート内容の改良を行い、より具体的な行動の内容に修正した。

③今後の課題

○アンケート実施対象とタイミングについて

現在、クラブの執行部に限って対象としている。本来は、クラブの当該年度の活動を通して、どれだけ成長したかを測定するものだと思うが、執行交代時期が統一ではないことにより、タイミングが難しい。つまり、特定の時期にアンケートを実施しても、すでにクラブ活動を引退している学生もおり、適切なタイミングにはならない対象者がいる。また、学友会が行っている各クラブ員名簿の集約が7月に完了するため、現在の作業フローの流れで、7月以前にアンケート実施することが難しい。

○サンプル数について

執行部に限っていることで、サンプル量は多くない。一方で、クラブ活動所属者の名簿をもとにアンケートをとると、名簿上は載っているが活動していない学生もアンケート対象となるため、アンケート結果への信頼度が低くなってしまう。2019年度は、サンプル数を増やすために、より広範囲のクラブ学生を対象とし、アンケート実施を行って参りたい。